『クリスチャンの子どもとして』　'23/04/23

聖書個所：エペソ人への手紙 6 章 1-3 節（新約 p.380）

近年におきましては、子どもが親を殺した…、なんていうニュースは時々報道されています…。正直、私たちも、もうそんなには驚かないようなっています。でも…、そんなことって、おかしくありません？子どもが親を殺すなんて…。しかも、そんなことが頻繁に起こっているなんて…。今、私たちは大変難しい時代に生きています。老若男女すべての人の中で、益々、モラルというものが失われていき…、親と子の関係が…、至極基本的な信頼関係さえ崩れていってしまっているように思います。

でも、だからこそ、私たちは真剣に、聖書のみことばに戻っていく必要があるのです！私たち人間の知恵や力ではなく…、全知全能の神が何とおっしゃっているのか…。私たちを造り…、私たちを生かしてくださっている神様がどんなことを望んでおられるのか…、私たちは、そこに目を向けないといけないのです！

命題：クリスチャンの子どもは、どのように家庭で過ごすべき？

今日、私たちはエペソ 6:1-3 から学んでいきます。ここでは珍しく…、子どもたちに対する教えが直接的に書かれてあります。今日は、ここの個所を通して、クリスチャンの子どもは、その家庭でどのように生きていくべきなのか、ということを学んでいきたいと思います。初めに、与えられました聖書のみことばをお読みいたします。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 6:1-3 をお開きください。

1 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからです。
2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、
3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする」という約束です。

Ⅰ・神に従うように、両親に従う！（1 節）

まず、最初に教えられてあるのは、両親に従うということです。しかも、それはただ単に親の言いなりになっていれば良いというのではなく…、“神様に従う”ように、自分の両親に従う！ということです…。ですから、現代にあっても、私たちは、クリスチャンの子どもたちに対して、「もしも、あなたが聖書の教える神を信じているのであれば…、まずは、しっかりと親に従うべきです。」と言うことができるのです…。

●『子どもたちよ』⇒ここで言われている　対象　とは？

まず、ここで言われている、『子どもたち…』とは、基本的には親から見た時の、その子どもたちすべてを指していると思われます。「何を言っているのだろう？」と思われるかも知れませんが…、ここで言われている、『子どもたち…』という言葉から、例えば、「これは、まだ 10 代で…、結婚をしていない男女のことである…」とか、「その子どもが未婚で、親と一緒に住んでいる場合に限られる…」などとは言えないように思います…。何故なら、ここで言われている、『子どもたち…』という表現には、一切、何の条件も記されていないからです…。ですから、皆さんが例え、10 代であろうと…、また、30 代や 40 代であろうと…、あるいは、60 代であろうと…、私たちの親に対する責任というものは一生続きます…。

例えば、Ⅰテモテ 5:4 のみことばは、こう教えます。『しかし、もし、やもめに子どもか孫がいるなら、まずこれらの者に、自分の家の者に敬愛を示し、親の恩に報いる習慣をつけさせなさい。それが神に喜ばれることです。』⇒ここのみことばは、あるやもめ（＝夫がいない女性）に、子どもだけでなく、孫が居るということを想定しています。しかし、それでも、その子どもたちには、親に対する愛を示すべきだし、また、親の恩に報おうとすることが、神に喜ばれることであると教えます。このように…、聖書は、子どもたちの親に対する責任をはっきりと教えています。それには、恐らく、年齢制限や有効期限などというものは無いのです…。

確かに、この少し前の、エペソ 5:31 では、『「それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。」』とあって、一旦、夫婦の関係が始まったなら…、それは親子関係よりも優先されるべきことが教えられています…。しかし、だからと言って、「じゃあ結婚すれば、親子関係が切れてしまって、親との関係や親に対する責任が一切無くなるのか？」と言うと、決してそうではないのです…。

●『両親に従いなさい』⇒ここで言われている　意味　は？

そして、ここで言われている、『両親に従いなさい…』という言葉は、以前にもお話ししましたように…、例えば、妻に対して、「その夫に従いなさい…」と言われている場合とは違った言葉が使われています。以前学んだように…、妻に対して、「夫に従いなさい」と言われている言葉（ὑποτάσσω）は、所謂、強制的な服従のことではなく…、どちらかと言うと、謙遜の延長のような、「自発的に従っていこう」というような態度のことでした…。しかし、ここで言われている、「両親に従いなさい」という言葉（ὑπακούω）は、その逆で…、どちらかと言うと、そこに選択の余地は無いような…、もう少し厳しい感じの従順のことなのです…。ギリシヤ語の辞書を見ても、この言葉は、「聞き従う、服従する」というような意味で…、相手の言うことに、しっかりと耳を傾けて、忠実に、そのことを守り行なうというようなニュアンスがあります。

●「　反抗期　」は必要？

ここで少し、皆さんにお話ししておきたいことがあります。時々、私たちの一般の社会では、「子どもたちが成長してくると、一時期、親などに対して反抗しがちになる…。いや、むしろ、そういった反抗期なるものが、子どもの成長には必要なのだ…」と言われることがあります…。しかし、本当に、そうなのでしょうか？…確かに、自分を含め…、多くの子どもたちを見てみますと、ほとんどの場合、思春期のある時期などに、親や様々な権威などに対して、反抗的になる時期があるように見受けられます…。

しかし、聖書のみことばは、そういったことをみことばに反するが故に、罪だと教えます！それは間違っている、って…。子どもたちだけでなく、それが成人であろうと、あるいは、男性であろうと、また、女性であろうと、親に対してだけでなく、それが国家であろうと、何であろうと…、私たちの心の奥底には、「自分の好きなようにしたい！」という思いがあるのではないでしょうか？

今日はもう聖書個所を開けませんが、創世記 3 章のところで、アダムとエバが初めて罪を犯した時に…、神様はエバに対して、『…あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。…』（創世記 3:16）と仰せられたように…、罪が入ってしまった人間たちは、例え、相手が誰であろうと、自分のしたいようにしたいし…、できることならば…、どのような相手にも従いたくはないのです…。違うでしょうか？

例えば、皆さん。どうか、ローマ 1:22 以降をご覧ください。ここのみことばは、私たち人間の罪について、こんな風に説明してくれています。『22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、 23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。 24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのために彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。 25 それは、彼らが神の真理を偽りと取り代え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これに仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメン。 26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわち、女は自然の用を不自然なものに代え、 27 同じように、男も、女の自然な用を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行うようになり、こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。 28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするように

なりました。 29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、 30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、』…と続いていきます。

⇒皆さん、今ここで、最後に、『親に逆らう者…』とありましたでしょ。改めて言うまでもなく…、親に逆らうということは、神様から見て罪と言うか、罪の結果なのです…。私たち人間が真の神様という存在を忘れたり…、あるいは、その神様に逆らったりする時に…、こういった傾向が益々、顕著になっていくのです。まさに、今の時代がそうです！

確かに、幼児期の…、未成熟で素直な頃と比べると、所謂、反抗期と呼ばれたりする頃は、特に、親などの権威的な存在に対して、刃向ったり…、言い返したり…ということが、顕著なように思えます。しかし、親などに逆らったりするのは、所謂、反抗期の間だけでしょうか？…違いますでしょ？子どもたちだけでなく…、私たち大人も含めて…、人間は皆、罪の故に反抗的なのです。私は、今ここで、「反抗期などは存在しない…」というようなことを言いたいのではありません。でも、私たちがしっかりと覚えないといけないのは、「所謂、反抗期というようなものが、子どもの成長には必要で…、むしろ、有らなければいけないのだ…」というような風潮が間違っている、ということなのです。

確かに、私を含め、大勢の方たちが「反抗期」と呼ばれるような…、様々なものに対して反抗的になるような時期を経験していることでしょう…。でも、本当に、それらは絶対に必要なものなのでしょうか？有って当たり前なのでしょうか？…もしも、そうだとすると、反抗期を経験しなかった者たちは、何か人間として未成熟なのでしょうか？…私たち人間を造ってくださった、創造主なる神様が、私たちに何と教えてくださっているか？私たちは、そこに注目すべきなのではないでしょうか？

もう1ヵ所、Ⅱテモテ 3:1-2 のみことばは、こう教えます。『1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。 2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、』⇒ここのみことばが教えてくれているように…、子どもが両親に従おうとしないことは罪なのです。それが多感な時期であろうと…、あるいは、自我というものが芽生えようとしている時期であろうと…、それが罪であることには変わりありません。

これは、また、次主日のメッセージで触れると思いますが…、当然、親の方にも、神様から与えられた親としてのルールがあります。しかし、神様が、聖書のみことばを通して、私たちに警告してくださっていることは、多くの人たちが、真の神様を信じず…、神様の教えから離れていくが故に…、また、世の終わりというものが近づいていくが故に、益々、こういった傾向が強くなっていく…ということなのです。

だからこそ、私たちは、そういった傾向に警鐘を鳴らしていくべきです！…一体、何が正しくて、何が間違っているのか？…そういったことを、私たちは、この世の中の流れや傾向などによって判断するのではなく、しっかりとした…、~~(聖書を持ち上げて)~~この聖書のみことばをもって判断すべきです！そうして、間違っていることは間違っていると言うべきなのです！また…、そういった世の中の傾向を見ていくことによって、益々、「世の終わりが近づいてきている」ということを理解して、益々、大胆に福音を伝えていくべきなのではないでしょうか！

●『主にあって』⇒最高の 主権者 とは？

今日の個所の、1 節には、『主にあって両親に従いなさい。…』とあります。もう、この言葉には詳しい説明は必要ないでしょう…。例えば、私たちが少し前に学んだ、エペソ 5:22 では、『妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。』とありました。また、エペソ 5:25 でも、『夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。』とあって、信仰者は皆、何よりもまず、神様を模範として、その神様に従うということが当然です。今回のみことばの 1 節でも、原語を直訳すると、「主、つまり、神様の中に…」という表現になっていますが、それは信仰をもって救われたということです。信仰をもって救われたが故に、私たちは両親に従おうとするのです…。それこそが神様のみこころであるからです。

それ故に、私たちクリスチャンにとっての、最高の主権者…、つまり、1番に従うべき御方は神様です！ですから、もし仮に、私たちの親が神様のみこころに背くことを命じるなら、私たちは神様を第1としなければなりません。しかし、それと同時に、みことばがはっきりと命じているのは「愛」です。人に対して善を施すということです。それには、対象を限定すべきではありませんが…、強いて言うなら、まずは、家族であるはずです。Ⅰテモテ 5:8 でも、『もしも親族、ことに自分の家族を顧みない人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりも悪いのです。』とある通りに、自分の家族や親戚を粗末にしたり…、顧みなかったりすることを、聖書ははっきりと禁じています。このように、聖書が教えてくれている優先順位は、まず第1に真の神様で、次に夫婦です。そして、次に子どもたちや家族が続いていくべきなのです…。

でも、1970 年代になって、アメリカで子どもを育てるにあたって、ある1つの考えが入り込んできました。…それは、子どもたちを第1の優先順位とするような考え方でした…。家族の中心は子どもであり…、子どもたちを1番大切にして…、子どもを、その思うがままに育てていこうとするのです…。その結果は明らかです。当然、子どもたちは自分のしたいようにしていきます…。私たち人間は、神様のみことばから離れて…、神様が願っておられる歩みとは全く別の歩みをなしていき…、益々、自分を喜ばせることが最優先になっていきました…。そのような教育…、そのような傾向が家庭の中に入って来たのです…。

みことばが教える家族の中心は夫婦です。子どもではありません。だから、私たちの家族が祝福されるために…、家庭が神様に喜ばれるように変わっていくためには、まず、子どもたちを矯正していくことではなく…、まずは、夫婦がしっかりと、聖書のみことばに沿って…、互いに相手を愛し…、その相手を立てていくことが必要なのではないでしょうか？

Ⅱ・両親を 尊敬 する！（2 節）

どうぞ、もう1度、今日のみことばをご覧くださいますと、一見、子どもたちに対する命令と言うか…、その教えは、「両親に従いなさい…」ということだけであるかのように見えますが、実は、もう1つあります。それは、心から自分の両親を“尊敬”しなさい！ということです。

●『あなたの父と母を敬え。』⇒その 意味 は？

今日のみことばの、2 節をご覧いただきますと、『あなたの父と母を敬え。…』とあります。皆さん、「敬う」って、具体的に、そのこと“だけ”を行動に出せます？…実は、これは心の態度のことなのです…。ここで、『敬え』と訳されてある言葉（τιμῶ）は、「尊敬する、大事にする、親を価値ある重要な存在とみなす…」というような意味の言葉で…、先程のポイントでは、どちらかと言うと…、「親に従う」というような行為について教えられてありましたが、ここの個所では、どちらかと言うと…、その心の態度について教えられてあるのです…。

これは、皆さんもよくご存知のように…、実に、古くからの教えです。最も有名なのは、出エジプト記 20:12 でしょう。そこには、『あなたの父と母を敬え。あなたの神、【主】が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。』とあります。今日のみことばでは、『これは第一の戒めであり…』と続きます。

確かに、出エジプト記に書かれてある…、十戒の部分を見てみますと、前半の4つの戒めは、神様との関係における部分で…、後半の6つの戒めは、私たち人間関係に関する教えがなされています。この、『あなたの父と母を敬え。』という命令は、その人間関係に関する教えの中で、第1番目にある！つまり、最も基本的なもの…、最も、重要なものである！ということを、今日のみことばは教えてくれているのではないでしょうか？

●クリスチャンが陥りやすい　過ち　とは？

時々ですが…、クリスチャンでない方から、「クリスチャンになったら、その人は、自分の親や家族を粗末にする…」と言われることがあります。皆さんは、そういったことを聞いたことがないでしょうか？確かに、私たちクリスチャンは…、聖書が教え…、それが神様のみこころであるが故に…、死んだ者に手を合わせたり…、お墓に向かって拝んだりはしません…。そういったことが、時々、親不幸に映ったりすることがあるようですが…、私には、どうも、そういったことだけではないように思えます…。

ちょっと皆さん、できましたら、マルコ 7:1-13 をご覧くださいますか。そこには、こんなことが記されてあります。『1 さて、パリサイ人たちと幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエスの回りに集まった。 2 イエスの弟子のうちに、汚れた手で、すなわち洗わない手でパンを食べている者があるのを見て、 3 ――パリサイ人をはじめユダヤ人はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わないでは食事をせず、 4 また、市場から帰ったときには、からだをきよめてからでないと食事をしない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るように伝えられた、しきたりがたくさんある―― 5 パリサイ人と律法学者たちは、イエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えに従って歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。」 6 イエスは彼らに言われた。「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、まさにそのとおりです。『この民は、口先ではわたしを敬うが、その心は、わたしから遠く離れている。 7 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』 8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」 9 また言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よくも神の戒めをないがしろにしたものです。 10 モーセは、『あなたの父と母を敬え』、また『父や母をののしる者は死刑に処せられる』と言っています。 11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあなたのために上げられる物は、コルバン(すなわち、ささげ物)になりました、と言えば、 12 その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。 13 こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」』

⇒実は、この当時…、聖書が教える優先順位を悪用して、自分のために利用している輩がおりました…。それは、こういうことです、確かに、聖書のみことばは父と母を敬い、大事にすべきことを教えています。しかし、ある人たちは、どうも…、年を取ってしまった自分の父や母を扶養し（＝面倒を見）たくなかったようです。そこで、パリサイ人や律法学者たちは、そういった者たちに、「両親の生活費となるはずだった金銭は、神様へと捧げてしまいました…」と言わせたのです。それが、『コルバン』(κορβᾶν)と言われるものです。この言葉は、元々は、ヘブル語で、「捧げ物」を意味しました。民数記 30 章には、一旦、神様に何らかの誓いを捧げたら、それをもはや取り消してはならない、というようなことが教えられてあります。このことを利用して…、パリサイ人たちは、子どもたちが親を扶養する義務を避けるための言い訳とさせたのです。だから、イエス様は、そのことを厳しく非難して…、最後 13 節で、『こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。』とおっしゃっているのです。

この当時の、パリサイ人たちや律法学者たちが間違っていたことは明白です。しかし、問題は私たちです。私たちも、神様のことを言い訳にして…、自分の両親や家族のことを粗末にしていないでしょうか？「神様を第1とすべきだから…」と言っては、自分の好き勝手なことをして…、自分が家庭にあって、果たすべき義務や責任から逃げてしまってはいないでしょうか？

実は、こういったことを話すのは、私自身の苦い経験があるからで…、私は、まだ信仰をもって間もなかった頃、教会に居ることが楽しくて…、いや、楽し過ぎて、どんなことでも、教会の奉仕を少しでも多くすることが神様を第1とすることだというような勘違いをしていました…。こういった失敗談を話すことには少々抵抗があるのですが…、当時、私の両親はもう既に亡くなった後で…、私は自分の実家で祖母と姉夫婦と暮らしていまして…、祖母の世話もあれば…、姉には、生まれて間もない子どもが居たのです。正直言って、当時の私は、子育ての大変さをほとんど何も分かっていなかったせいもあって、その甥っ子と遊んだりすることもほとんどなく…、おむつを交換することさえ、たった1度もありませんでした…。

まぁ、今になって反省するのは、「あの時、もっと、姉や姉の家族を顧みておけば良かったなぁ…」ということです。そうしておけば…、今の姉との関係も、もう少しは良いものになっていたのかも知れません。

皆さんは、こういった苦い経験をお持ちではないでしょうか？…確かに、聖書は、神様を最優先すべきことを教えてくれています。しかし…、そのために、両親や家族を粗末にしてはいないでしょうか？ちょっと、皆さん。Ⅰテモテ 3:1-5 をご覧ください。ここには、教会のリーダーとなるべき監督が持っているべき条件について教えられてあります。『1 「人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである」ということばは真実です。 2 ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、 3 酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、 4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。 5 ――自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができるでしょう――』

⇒確かに、ここのみことばは、監督、つまり、長老や牧師の条件に関するものです…。でも、このすぐ後には、今度、執事の条件でも、同じようなことが挙げられています。…ですから、牧師や執事でない…、一般の教会員は、家庭を治めなくて良いのか？と言うと、明らかに、違います。牧師や執事たちは、群れの“模範”として、家庭を治めている必要があるのです。ですから、家庭を治めるという責任は、教会員と言うか…、すべてのクリスチャンにもあるのです！

どうか、皆さん。ぜひ1度、考えてみてください。…皆さんも、ひょっとしたら、神様のみことばを言い訳にして、自分のやりたいことをやってしまってはいないでしょうか？…もしもそうなら、それは、神様のみことばを否定する行為であって…、決して、それは、神様に喜ばれる選択ではありません。どうか、今一度、皆さんが、神様に喜ばれる歩みをしているかどうか、考えてみてください…。

●神の与えてくださる　祝福　について

もう1度、今日のみことばである、エペソ 6:2-3 をご覧ください。『2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴ったものです。すなわち、 3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生きする。」という約束です。』⇒ここでは、神様の与えてくださる約束（＝祝福）について教えられてあります。

それらは2つあります。①まず1つ目は、しあわせになるということです。ここにある、『しあわせになり…』という言葉は、アオリスト（＝不定過去）の時制で教えられています。これは、過去のある時点で、もう既にそのことが起こったということです。もしも、皆さんが聖書のみことばにそって、ご自分の両親に従い、敬うな

ら、皆さんは、もう既に、幸せになったはず！そういったことを経験したはずだと、みことばが教えるのです。これは、私たちの望む学校に進学でき…、良い会社に就職できて…、事がうまく運んでいくということではありません。神様が皆さんと共に居てくださり…、皆さんを満足や誇りを与えてくださるということなのです…。そうして、そういった思いはやがて、皆さんのご家族を一致へと導き…、神様の祝福へと導かれていく…、というのです。

そして、②もう1つは、『地上で長生きする…』ということです…。この言葉は、そもそも、旧約の時代のイスラエルに与えられたものです。例えば、さっきも見た、出エジプト記 20:12、『あなたの父と母を敬え。あなたの神、主が与えようとしておられる地で、あなたの齢が長くなるためである。』…これと同じような教えは、聖書の内に何ヵ所かあります…。イスラエルの民たちは、時々、自分たちの犯した罪によって、神様からいのちを縮められて…、寿命を全うすることができませんでした…。しかし、もしも、彼らイスラエルの民たちが神様に従っていれば、そういったことも起こり得なかったのではないでしょうか？

それと…、ひょっとしたら、ここで言われているのは、私たちが、患難時代やイエス様の地上再臨の後、招き入れられる「千年王国」のことを言っているのかも知れません。…もし、そうであったとしても、私たちが注目すべきことは、人生の長さのことだけではありません。…と言いますのは、神様の前にあまり価値の無かった 100 年もあれば、神様の栄光のために用いられた 20 年の人生もあるでしょう…。確かに、若くして人が亡くなっていくのは非常につらいことですが、でも、そういったことを通しても、私たちが教えられるのは、すべてのいのちは神様のものである…、ということです。

例えば、あのパウロは、ピリピ 1 章で、この地上で生きながらえることと、天に行けることとを比較して、何と言っています？…パウロの願いは、『…世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。』（ピリピ 1:23）というわけでしょ！この地上で生きるよりも、天に行って、イエス様と共に居ることの方が、遥かに素晴らしいし、良い環境なのです！

だから、パウロにとっては…、与えられた人生を神様と共に歩み、自分のような者を通して神様の栄光が現わされることを、彼は1番に願っておりました。だから、パウロは、ピリピ 1:20-21 で、こう告白しています。『20 それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。 21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。』って…。このように告白したパウロは、晩年になって…、『私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。』（Ⅱテモテ 4:7）と証しして、殉教していきました。

＜励ましの言葉＞

しかし…、一体どれほどの人間が、このように告白して、死を迎えているでしょうか？間違いのないことは、すべての人間が、このような充実した死を迎えていないということです。いえ…、クリスチャンであっても、そうです。すべてのクリスチャンが、このパウロのような…、満足したような死を迎えてはいません…。

だから、言うのです！信仰を持って…、救われただけで、自動的に神様の祝福のすべてが手にできるわけではありません。そこには、私たちの選択があるのです…。神様は、常に、私たちに何をどのようにすべきなのかということを教えてくださっています！それが、聖書にある数々の教えであり…、命令です。そうして、神様は、私たちがみことばに従っていけるように、励ましを与え…、警告を与えてくださっています。…と同時に、私たちに助け主である、御霊なる神様をもう既に与えてくださっています…。

それに、どうか、若いクリスチャンの皆さんに聞いてほしいのですが…、皆さんは、誰かお友だちのために、どの程度のものを犠牲にできます？…例えば、10-20 万円というお金を犠牲にできます？この人のためなら、10-20 万円だって惜しくない！と言い得ます？…でもね、皆さん。間違いなく、皆さんのご両親は、皆さんのためなら、10-20 万円どころか、自分のいのちだって犠牲にしてくれるほど、皆さんのことを大事にしておられるのではないでしょうか？

しかも、皆さんの親御さんは、多分、皆さんやお友だち以上に、たくさんの経験や知恵をお持ちです。そんな親御さんたちは、きっと、皆さんのことを思って、完璧ではなくても…、必要だと思えることをアドバイスしてくださっていると思います。…絶対に、親御さんに従いなさい！とは言いません。でも、どうか、親御さんのアドバイスに耳を傾けて、良い意味で、お父さん・お母さんのことを利用して…、より価値ある人生を…、より神様に喜ばれる選択を続けていってほしいと思います。いつも言いますように、神様の祝福をいただけるかどうか？そのカギは、皆さん自身にあるのです…。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。